

さがしてみよう・見てみよう!

山頂付近に広がるブナ、ミズナラを中心とする広葉樹林では、麓とはまたちがった種類の動植物との出会いを楽しむことができます。

1. 解説板めぐりで自然学習

自然研究路には、筑波山の地質や岩石、草木、昆虫などに関する解説板が18基設置され、筑波山の自然の特徴を学ぶことができますようになっていきます。カラー写真などで分かりやすく説明してありますので、散策の時にぜひ読んでみてください。

*設置場所は裏面の地図参照。



2. 葉っぱで見分ける筑波山の樹木

自然研究路の代表的な樹木5種類を葉の形から見分けてみましょう。葉の右下の数字は、(写真の大きさ)/(実物のだいたいの大きさ)の比率です。



①アカガシ/光沢があり、葉のふちはなめらか。②クマシデ/葉のふちはギザギザ。脈が20本以上。③ブナ/葉のふちの脈の先端が凹む。④ミズナラ/尻すぼみ形。葉のふちは粗いギザギザ。⑤シナノキ/ハート形で細かいギザギザ。

3. 男体山・四季の草花

自然研究路では、高い山や寒い地方に分布する植物が多く見られます。筑波山神社付近で見られる、暖かい地方に分布する植物との種類のちがいを見てみましょう。また、自然研究路で見られる植物の中には、筑波山で採集された標本によって名前がつけられた植物(写真右上に●印)もありますので、さがしてみてください。*解説板⑩、⑫、⑯参照



エンレイソウ (4月)



トウゴクサバノ (4-5月)



オオナルコリ (6-7月)



ホシザキユキノシタ (7月)



タマガワホトトギス (8月)



アサマヒゴタイ (9-10月)



オクモミジハグマ (8-10月)

4. 森の野鳥たち

自然研究路とその周辺では、年間50種類ほどの野鳥を観察することができます。森の中で野鳥を見つけるには、鳴き声や、餌をさがして動き回る音に耳をすませ、音のする方向を目で探すのがコツです。



アオゲラ /30cm/ 通年



メジロ /12cm/ 通年



ルリビタキ /14cm/ 冬



シジュウカラ /14cm/ 通年



ウグイス /15cm/ 通年



マヒワ /12cm/ 冬



ノスリ /55cm/ 通年



キビタキ /13cm/ 夏



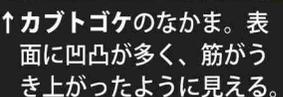
シロハラ /25cm/ 冬

5. 地衣植物・空気のきれいさを知るバロメーター

森の中の光と水分条件の変化や空気のごとれに敏感な地衣植物の数は、その地域の気候の特徴や、空気の清浄さを知る指標となります。*解説板⑦参照



↓センシゴケ。体に丸い穴が多数あいている。



↑カブトゴケのなかま。表面に凹凸が多く、筋がうき上がったように見える。



↑マツゲゴケのなかま。体のへりに黒い毛のようなものがはえている。

6. 階段や歩道の歩き方に注意しましょう。

歩道の縁の部分は、適度にササ刈りがされており、明るい場所を好む植物たちの恰好のすみかです。階段を避けて歩道の縁の部分歩く人が増えると、写真のように「道」ができ、カタクリやスミレのなかまなどが減っていきます。雨の時には土が流れ出ていくため、階段がぐらついたり、こわれやすくなりますので、歩道から外れたりしないよう、ご協力をお願いいたします。



筑波山コース別ガイド 登山コースの自然案内

筑波山自然研究路 男体山登山道

